

# 令和7年度全国学力・学習状況調査 下川町内の状況及び今後の改善方策

小学校数: 1校、中学校数: 1校

## ○教科に関する調査の状況

### 【レーダーチャート】

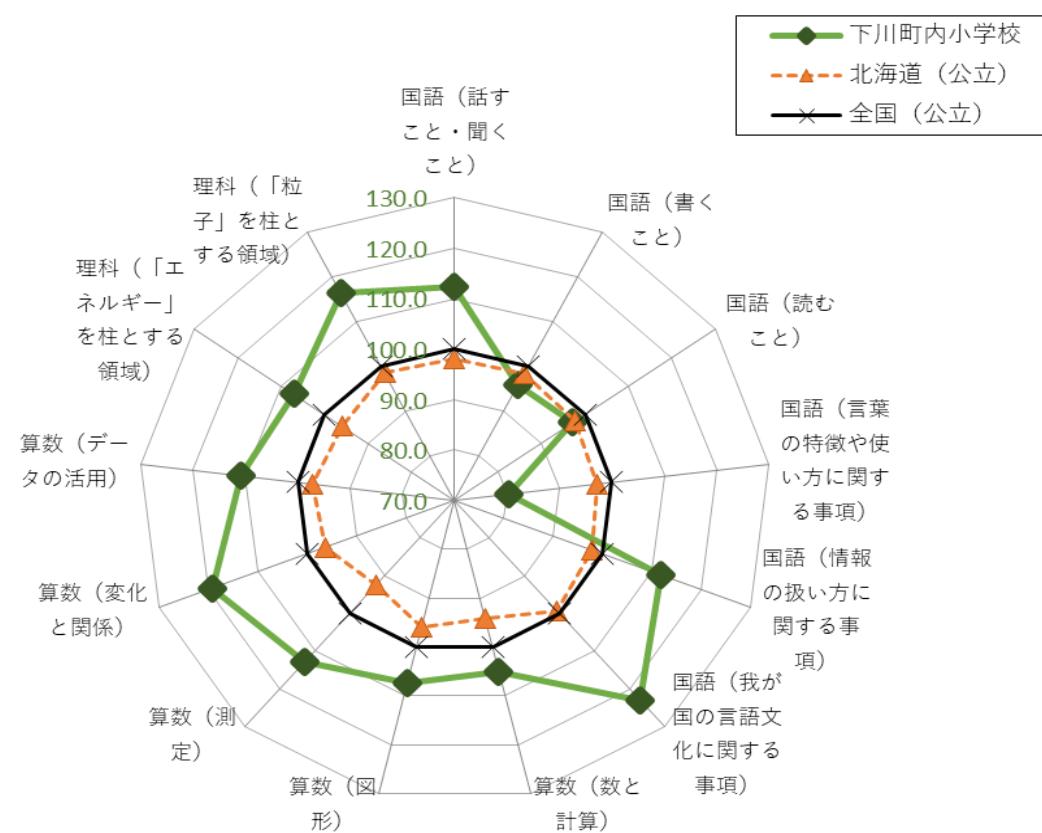
- 教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- 中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

### 【平均正答率・平均IRTスコア】

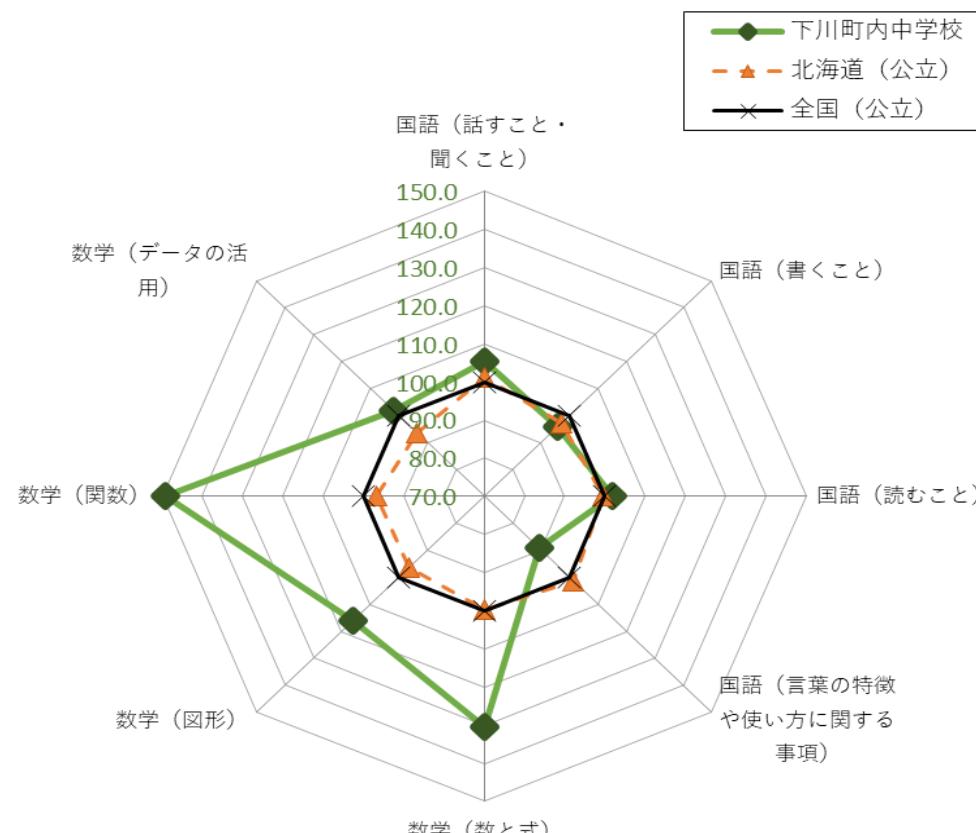
※中学校理科は平均IRTスコア

|         | 小学校  |      |      | 中学校  |      |     |
|---------|------|------|------|------|------|-----|
|         | 国語   | 算数   | 理科   | 国語   | 数学   | 理科  |
| 下川町     | 67   | 61   | 67   | 54   | 60   | 578 |
| 北海道(公立) | 65.4 | 55.2 | 56.3 | 54.0 | 46.7 | 505 |
| 全国(公立)  | 66.8 | 58   | 57.1 | 54.3 | 48.3 | 503 |

### 小学校



### 中学校

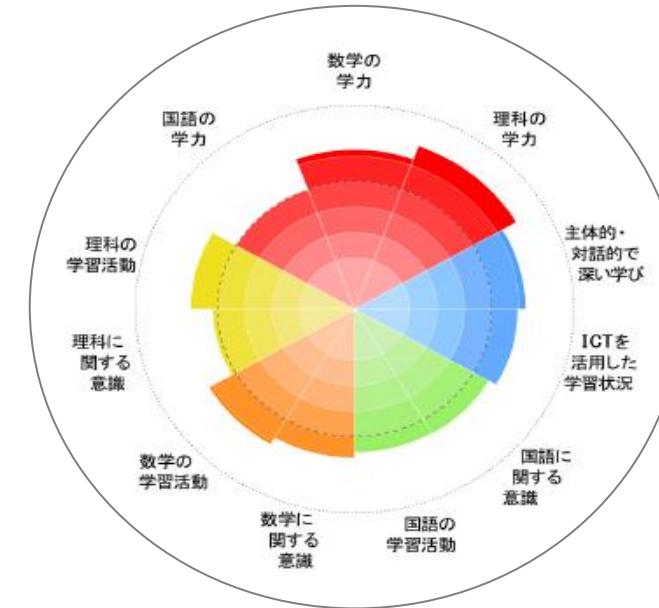


## 【教科を中心とした学力・学習状況】

小学校

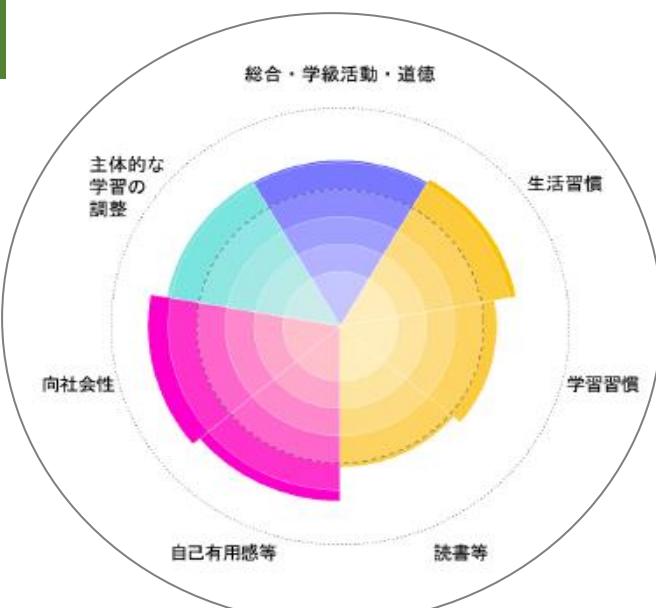


中学校

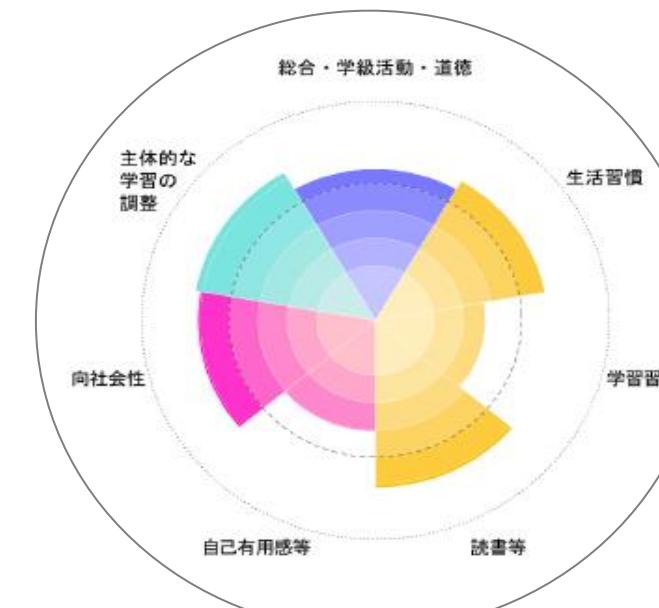


## 【その他の学力・学習状況(学習習慣・自己有用感等)】

小学校

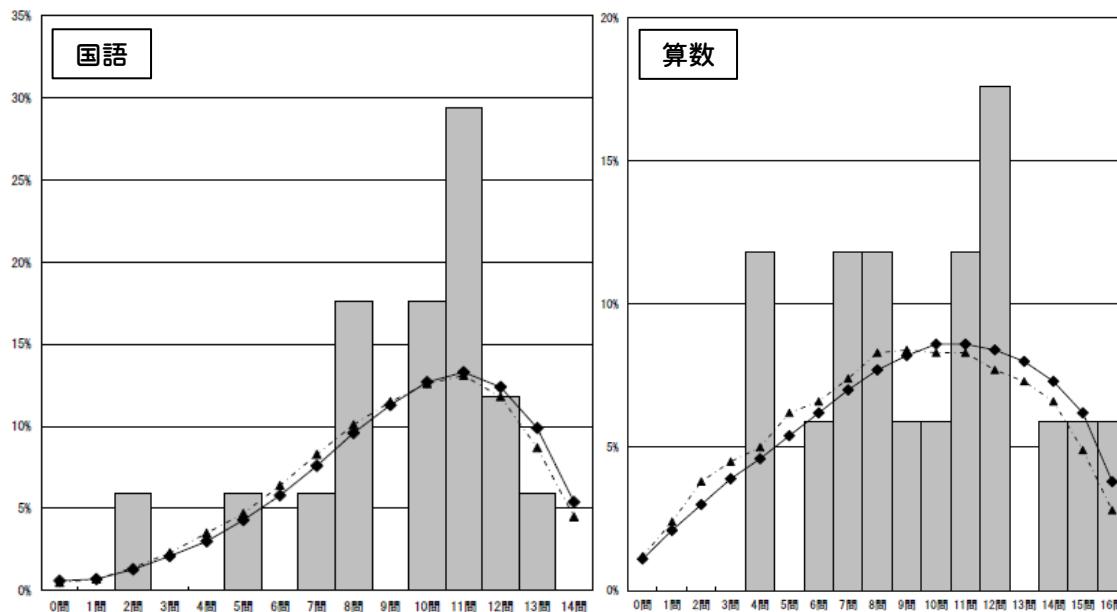


中学校

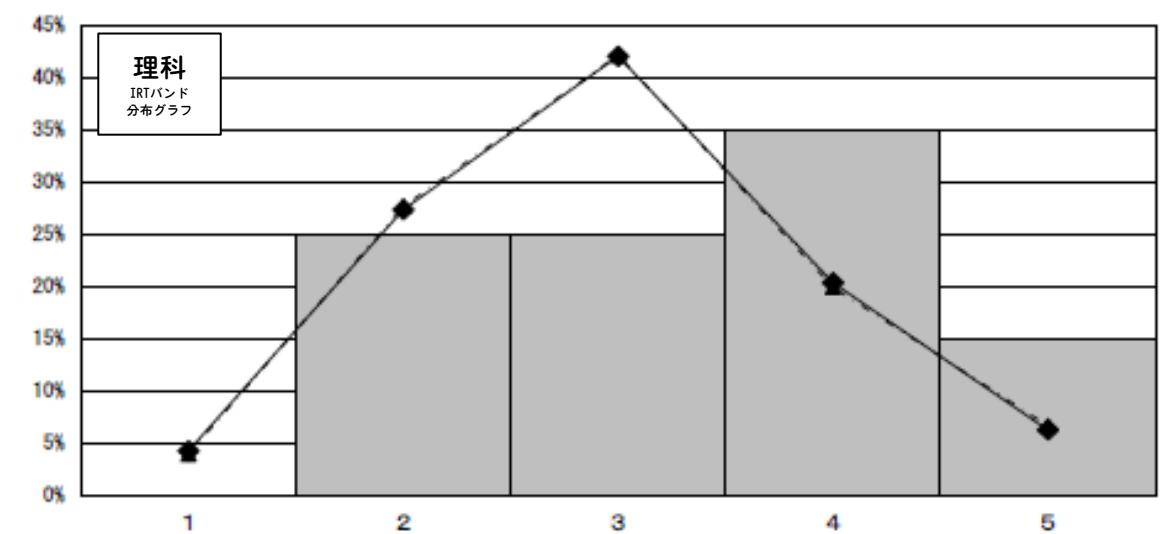
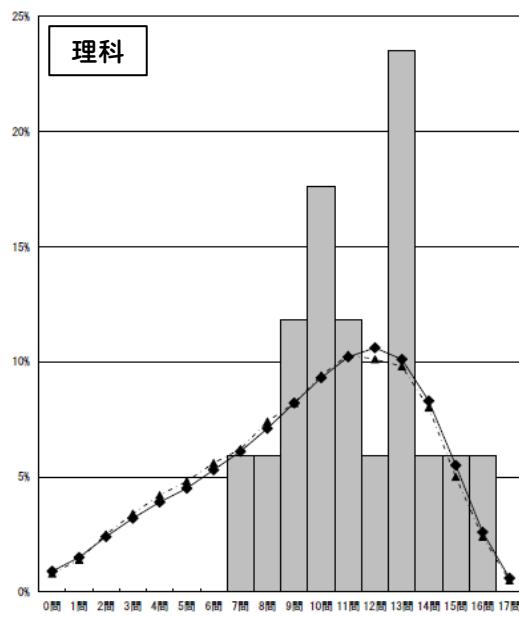
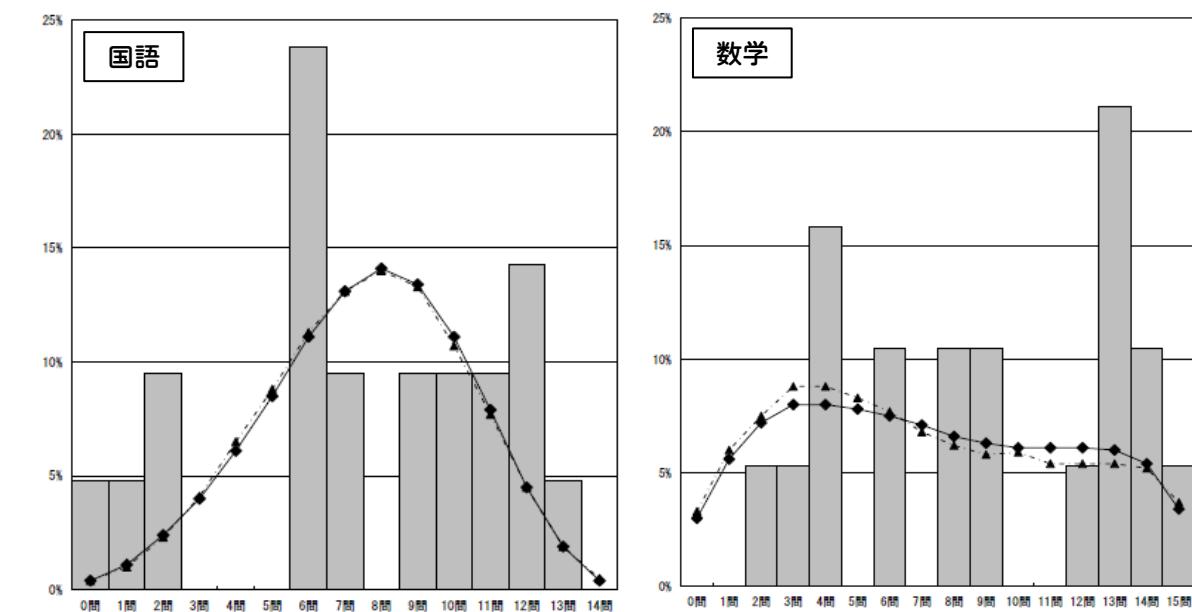


## ○正答数分布グラフ・IRTバンド分布グラフ

**小学校**



**中学校**

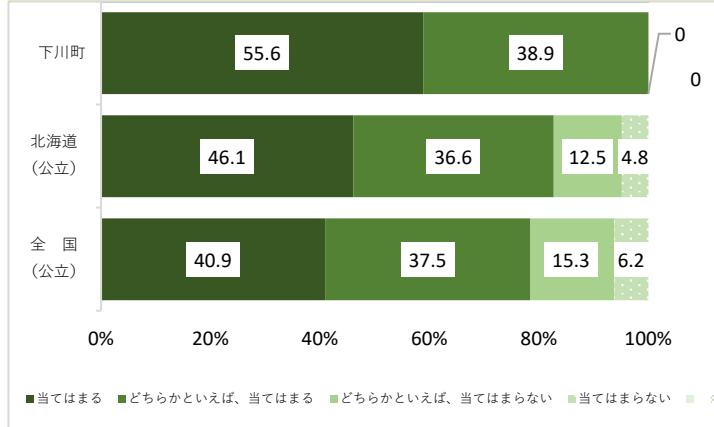


## ○質問調査の状況

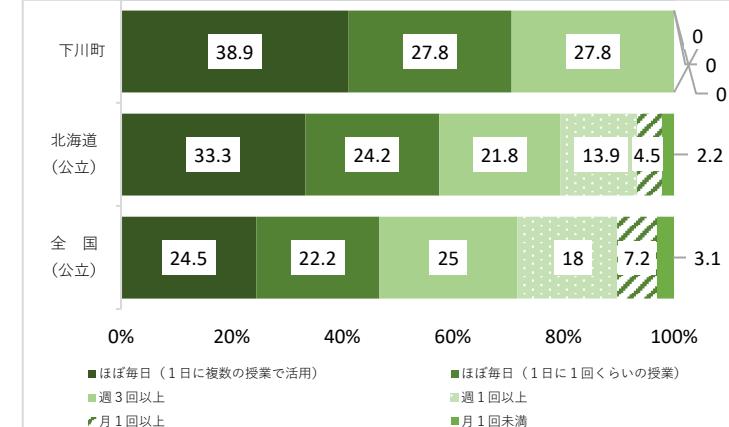
### 小学校

#### <児童質問>

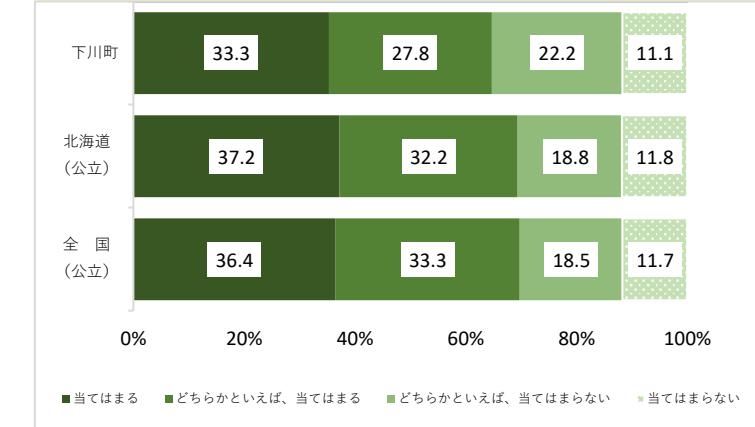
##### ●理科の勉強は得意ですか



##### ●5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



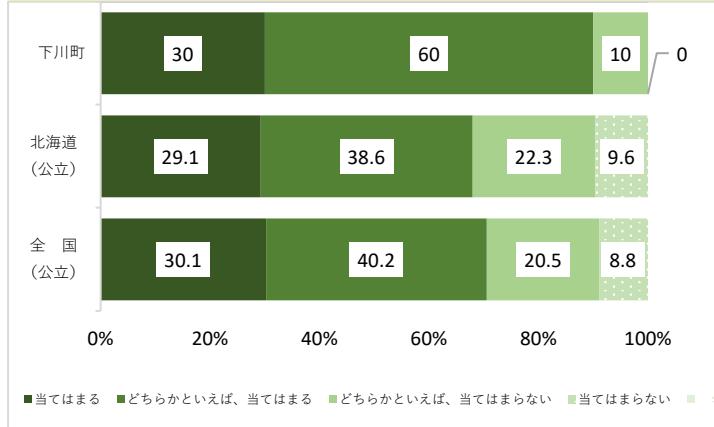
##### ●読書は好きですか



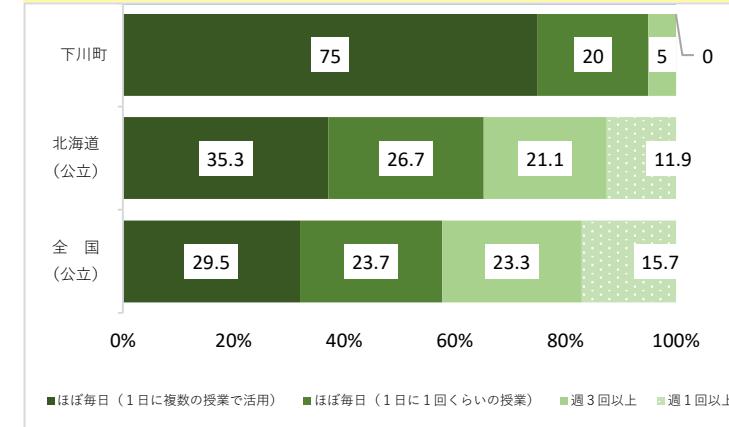
### 中学校

#### <生徒質問>

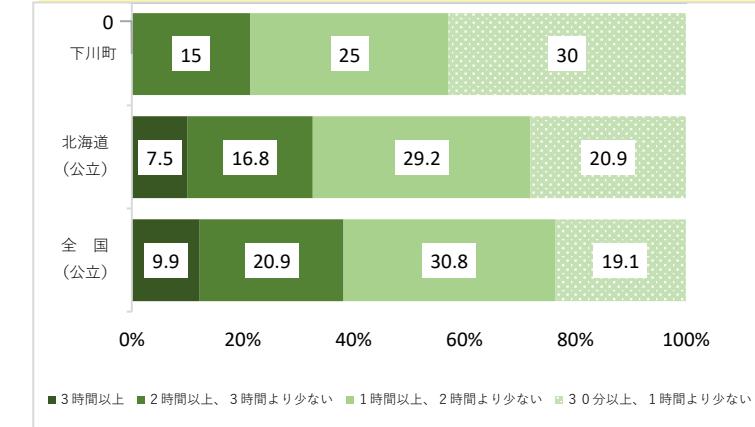
##### ●数学の授業の内容はよく分かりますか



##### ●1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



##### ●学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか (学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



## 【調査結果分析】

- ◇小学校及び中学校において、国語・算数数学理科全ての調査教科で、全国・全道の平均正答率を上回った。  
(中学校国語はほぼ同等、中学校数学では、全国比で約12pt上回る)  
領域・学習状況においても、ほとんどで上回っているものの、根拠を明確して書く(国語)、理由を書く・説明する(算数数学)など、記述力に関する正答率が低かった。
- ◇小学校及び中学校において、児童生徒一人一人に配備されたタブレット(今年度更新)をほぼ毎日有効活用した日常授業の工夫改善により、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」と回答した児童生徒の割合が全道・全国を上回ったと考えられる。また、ねらいを明確化した乗り入れ授業や習熟度別授業の工夫改善により、算数数学の学力向上が顕著に見られた。
- ◇質問調査では、小学校及び中学校において、「自分には、よいところがあると思う」「先生は、よいところを認めてくれていると思う」という回答が全国を大きく上回っている。一方、小学校では「読書活動」、中学校では、「学習習慣・自己有用感等」において、課題傾向が見られる。

## 【今後の方策】

- ◆校内研修(互見授業等)の充実を図り、「一人も取り残さない授業改善」に向けて、ねらいを明確にしたICT機器の利活用を一層推進し、個別最適な学び(記述力の向上)と協働的な学びの質の向上を図る。また、本町の特色(豊富な自然、人材等)を生かし、総合的な学習の時間の取組を通して、キャリア教育を推進する。
- ◆小学校における読書活動の推進においては、教師による読み聞かせの工夫や「Padlet」の有効活用により、自身の読書記録を残し、振り返りや意欲の向上につなげる。中学校における自己有用感を高める手立てとして、日常授業や学校行事等の取組過程で「充実感」、終了後には「達成感」を味わえるための評価を意図的計画的に取り入れる。学習習慣の改善においては、現在実施している小中一貫教育のメリットを生かし、9年間を見通した家庭学習の取組方法を構築する。  
(中学校では、「手書き手帳フォートサイト」の利活用)

